

# 4. 胃ろう又は腸ろうによる経管栄養

指導者評価票

日本慢性期医療協会「介護職員等によるたんの吸引・経管栄養の実施のための研修」(第1号・第2号)

## 経管栄養「実地研修」評価票

研修受講者氏名		所属		本票( / )枚目
---------	--	----	--	-----------

- 【達成度】  
 ア. 1人で実施し、手引きの手順どおりに実施できている  
 イ. 1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導した  
 ウ. 1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導した (その場では見過ごせないレベル)  
 エ. 1人での実施を任せられるレベルにはない

回数		( )回目	( )回目	( )回目	( )回目	( )回目
月 日		/	/	/	/	/
時 間		:	:	:	:	:
評価項目		達成度記入欄				
STEP 4 準備	1	医師の指示等の確認を行う				
	2	手洗いをを行う				
	3	必要な物品を準備する				
	4	指示された栄養剤(流動食)の種類、量、温度、時間を確認する				
	5	経管栄養の注入準備を行う				
	6	準備した栄養剤(流動食)を実地研修協力者のもとに運ぶ				
STEP 5 実施	7	実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する				
	8	注入する栄養剤(流動食)が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する				
	9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する				
	10	注入を開始し、注入直後の状態を観察する				
	11	注入中の表情や状態を定期的に観察する				
	12	注入中の実地研修協力者の体位を観察する				
	13	注入物の滴下の状態を観察する				
	14	挿入部からの栄養剤(流動食)の漏れを観察する				
	15	注入中の実地研修協力者の状態(気分不快、腹部膨満感、おう気・おう吐、腹痛、呼吸困難等)を観察する				
	16	注入終了後はクレンメを閉め、経管栄養チューブの連結を外す				
	17	経管栄養チューブに白湯を注入し、状態を観察する				
	18	半坐位の状態を保つ				
STEP 6 報告	19	実地研修協力者の状態を食後しばらく観察し、研修講師に報告する				
	20	体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常がなければ体位変換を再開する				
	21	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする(該当する場合のみ)				
STEP 7 片付け	22	使用物品を速やかに後片付けする				
STEP 8 記録	23	ケアの実施の証明および今後のケアプランに活用できるように記録しておく				
結果(アの個数)/評価の母数		/	/	/	/	/
指導者のサイン						

指導者氏名

所属